

## MACF礼拝説教要旨

2021年12月12日

「光は暗闇の中で輝いている」

ヨハネによる福音書

1:1 初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。

1:2 この言は、初めに神と共にあった。

1:3 万物は言によって成った。成ったもので、言によらずに成ったものは何一つなかった。

1:4 言の内に命があった。命は人間を照らす光であった。

1:5 光は暗闇の中で輝いている。暗闇は光を理解しなかった。

### 1) 暗闇の中に座っている人々

いろいろな分野における「安全神話」が壊れはじめ、とんでもない危険や不安が社会全体を覆い尽くそうとしています。

そしてますます、原因のわかりにくい病気も増えているようです。

私達を取り巻く「暗闇」「不安」「恐れ」などを数え始めるときりがありません。

本来、科学技術が進歩し、もっと安全でもっと住みやすくなっていいはずなのに、将来に希望を語れない状況が私達を覆っています。

お金があって、ある程度の職歴があっても、本当に安心しきっていることが出来ません。リストラの嵐が吹きまくっています。銀行でさえつぶれるような社会環境です。

そして、人間関係で悩んでいる人や自分の精神状況に不安を持っている人の多さには圧倒される感じがします。

冷静に考えれば考えるほど、暗闇に置かれている私達の姿が見えてきます。

4:14 それは、預言者イザヤを通して言われていたことが実現するためであった。

4:15 「ゼブルンの地とナフタリの地、湖沿いの道、ヨルダン川のかなたの地、異邦人のガリラヤ、

4:16 暗闇に住む民は大きな光を見、死の陰の地に住む者に光が射し込んだ。」

マタイ4：15-16

イエスさまご自身がこう言われました。マタイ24章4節からです。

24:4 イエスはお答えになった。「人に惑わされないように気をつけなさい。

24:5 わたしの名を名乗る者が大勢現れ、『わたしがメシアだ』と言って、多くの人を惑わすだろう。

24:6 戦争の騒ぎや戦争のうわさを聞くだろうが、慌てないように気をつけなさい。

そういうことは起こるに決まっているが、まだ世の終わりではない。

24:7 民は民に、国は国に敵対して立ち上がり、方々に飢饉や地震が起こる。

24:8 しかし、これらはすべて産みの苦しみの始まりである。

24:9 そのとき、あなたがたは苦しみを受け、殺される。また、わたしの名のために、あなたがたはあらゆる民に憎まれる。

24:10 そのとき、多くの人がつまずき、互いに裏切り、憎み合うようになる。

24:11 偽預言者も大勢現れ、多くの人を惑わす。

24:12 不法がはびこるので、多くの人々の愛が冷える。

24:13 しかし、最後まで耐え忍ぶ者は救われる。

そういう時代が実感できる今日この頃です。

## 2) 光なるキリスト

キリストが、ここにいれば、先にあげた問題がすべて一瞬のうちに解決するというわけではありません。

はっきりしているのは、キリストは先に挙げた問題のひとつひとつについて、一緒に悩んでくださり、一緒にないてくださり、私達の心に語りかけを与えてくださって方向づけや判断の基準となり得る根源的な考え方の土台を与えてくださいます。

光には不思議な役割があります。いのちをもたらす役割もあります。安心感を与える役割もあります。自分をしっかり見つめるためには光が必須です。

以前、ガリラヤ湖畔に2日間ほど滞在したことがありましたが、湖を取り巻く丘の上に点在する人家のあかりは、文字通り、希望の光のように見えました。

光を自認する人たちがいろいろ出てきては問題を起こし、人々を惑わし、特に宗教という環境の中で、とんでもなく金銭的にも倫理的にも問題を起こしています。

イエス様は光なるお方として来てくださいました。そのお方に信頼しながら、そのお方から学びながら生きていくなら、私達は、その光を受け取りながら、いわゆる光の中を歩めるようになるのです。

## 3) 光の中を歩む

光の中を歩むとはどういう生き方なのでしょうか？いくつかの特徴があります。

### ① みことばを支えに生きられる

詩編119:105 あなたの御言葉は、わたしの道の光わたしの歩みを照らす灯

119:130御言葉が開かれると光が射し出で無知な者にも理解を与えます。

私達の混沌としたこの時代だからこそ、聖書のことばを基準として、姿勢や哲学を構築していくことが大事です。

## ② 罪を認め、悔い改めながら生きていける

私達は、気をつけないと他者に厳しく、自分に甘くなりがちです。

イエス様は、私達ひとりひとりが本当に自分を吟味しながら歩むように求めておられます。兄弟の中のおがくずを見る前に、自分の目の中の「丸太」を取り除くように語っているのです。

その姿勢こそ、今の時代を生きる、特に人の前に立ってリーダーシップを取ろうとする人たちには求められているものです。

自らの小ささをうなずき、自らの罪を素直に認め、神様の前にも人の前にも正直に、誠実に生きようとする姿勢が大事なのです。イエス様は私達の心に光を点じ、それを可能にしてくださいませ。ヨハネ第一の手紙のことばを見てみましょう。

1:6 わたしたちが、神との交わりを持っていると言いながら、闇の中を歩むなら、それはうそをついているのであり、真理を行ってはいません。

1:7 しかし、神が光の中におられるように、わたしたちが光の中を歩むなら、互いに交わりを持ち、御子イエスの血によってあらゆる罪から清められます。

1:8 自分に罪がないと言うなら、自らを欺いており、真理はわたしたちの内にありません。

1:9 自分の罪を公に言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、罪を赦し、あらゆる不義からわたしたちを清めてくださいませ。

1:10 罪を犯したことがないと言うなら、それは神を偽り者とするのであり、神の言葉はわたしたちの内にありません。

## ③ 兄弟を赦し、愛せるようになる

「愛することを学ぶこと、それが人生、愛することを知ること、それが幸せ。あなたの最善を願い、それを喜び、あなたに祝福届くように心を燃やして生きていこう。」

という歌を私は書きましたが、それを自分の喜びとして生きられるようになるのです。イエス様がどれほど私達を愛して下さっているかがわかればわかるほど、他者の祝福を願うことができるようになります。その生き方こそ、光の中に生きている証拠のようなものなのかもしれません。

ヨハネの手紙第一

2:9 「光の中にいる」と言いながら、兄弟を憎む者は、今もなお闇の中にいます。

2:10 兄弟を愛する人は、いつも光の中におり、その人にはつまずきがありません。

2:11 しかし、兄弟を憎む者は闇の中におり、闇の中を歩み、自分がどこへ行くかを知りません。闇がこの人の目を見えなくしたからです。

1913年と言いますからもう100年以上も前になるわけですが、津田塾大学を創立した津田梅子女史が、卒業式のときに女子学生にこういうことを言い残しています。

「私たちがあなたがたのために願う、幸せで順調な航海のため、導いてくれる灯かりや

危険を知らせる信号があります。

ひとつの大きな導きの灯かりは「真実」です。

私たちが見ることを拒否さえしなければ、それは私たち全員の魂の中で輝きます。

私たちのつまらない卑しさ、利己心、虚栄心や嫉妬心を明らかにして、他人の中にある善を教えてください。

愛と献身という導きの灯かりにもしたがってください。

女性にとって、それは本能と呼ばれますが、おうおうにして愛は狭く、献身は気まぐれで浅はかです。

広く、深く、献身的に愛することを学びなさい。そうすればあなたたちの人生が失敗することはありません。」

「真実」という光、と「愛」という光を津田梅子さんは大事なこととして教えているのです。

キリストは、ヨハネによる福音書1:14 言は肉となって、わたしたちの間に宿られた。わたしたちはその栄光を見た。それは父の独り子としての栄光であって、恵みと真理とに満ちていた。

とされています。キリストの中にこそ、この光は満ち溢れているのです。

クリスマス、光なる救い主イエス様が来てくださった日。そのお方を礼拝する日。

イエス様が提供してくださる光をしっかりと心にいただきましょう。

愛の光、赦しの光、導きの光、み言葉の光、イエス様は求める私達の心にそれらの祝福をもって、ご自身来てくださいます。

メリークリスマス

\*\*\*\*

MACF礼拝映像はこちらです。

<https://youtu.be/RhvNwWjAeM4>